

保存会だより

発行
徳高人形・
御船祭保存会

第十五回研修旅行

小江戸川越さんぽ

人形飾り物の知識を深める目的で名所旧跡を訪ねる研修旅行が猛暑の中七月十九日三十名の参加にて行われた。今回は埼玉県でユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に登録され川越まつりが行われる小江戸川越を訪ねる旅である。

朝七時に出発したバスは長野道上信越道へと進み、車中では参加者中山隆さんより川越の歴史や町の成り立ちが語られ市政制度第一号であり、江戸と明治時代には大火に見舞われたが以後残されたり造られた物建物が今小江戸と呼ばれるようになっていると伝えられた。また若宮昭三さんからも参拝拝観する川越大師喜多院に関わる天海大僧正の話があり徳川家光誕生の間、春日局化粧の間がどうしてこの寺院にあるのか徳川幕府との関係の話を頂き事前に見学をする楽しみが増えた。

喜多院に到着すると二班に別れボランティアガイドによる案内を頂き、江戸城の庭を模したとされる美しい庭園や国重要文化財に指定されている客殿の家光生誕の間や湯殿を見学して「廁はちよつと恐いね。」などと話が聞こえた。本堂をお参りの後、国重要文化財の書院春日局化粧の間を見学して「天井が低いね。」と話しを聞いていたガイドさんから「隠しの二階が有るです。」と説明がされた。外に出て五百羅漢を見学した。釈迦如来をはじめ五三八体の石像が有り、十二支の干支

が彫られている像から若い人から老人など個性的な形や容姿の石像を各々見入って「あった、あった。」と自分の干支の像を探し廻っていた。

昼食は名物いも料理を堪能し、その後は蔵造りの町並みに移動、川越まつり会館を見学した。川越氷川神社祭礼に曳き出される県や市文化財に指定されている全二十九台の山車の中から二台が常時展示されている会館は市が所有して観光協会に運営を委託しているそうで、文化財に対する行政の対応がうらやましく思えた。館内ではDVDと係の説明に江戸の町から伝えられた長い歴史を感じ、極彩色に塗られ美しく高さが変えられる等細工なされる山車を見入った。会館にはユネスコ無形文化遺産登録証が展示されており御船祭もその中に加わる事が出来れば良いと思った。

会館を後にして暑い中平日でも賑やかな町並みを各自散策して、川越城大手門跡や川越氷川神社等に各自散策をして時を過ごし、町のシンボル「時の鐘」が鳴る午後三時を合図に集合した。しかし参加者からは「鐘の音は小さいね。」や「近くなら聞こえたよ。」の声が上がっていた。

暑い中の旅行でしたが参加者の協力により時間通り帰り着くことが出来た。今後も飾り物制作の参考となり、会員の親睦を深める旅行を計画して参ります。



若年層人形講座

小学生を対象とした徳高人形制作講座がこの一年間等々力町区、徳高区、徳高町区それぞれで開催され子供たちが地元の伝統文化に触れる一時を楽しんだ。

等々力町区では鎧兜、着物、刀など説明を受け人形への鎧着物などの飾り付けを行った。子供達は牛流教室指導者の手ほどきを受け徐々に着付けを行い、時間が掛かるね。「重かった。」と話し、その後は子供達が次から次と鎧等を着装した。

徳高区田中公民館では保尊教室による人形の頭(部分)の制作が行われ、ベニヤ板に接着した発泡スチロールへ大人の顔を観察して紙粘土を貼り付ける作業をした。

「最初は粘土が上手く付かなかったが、やっているうちに楽しくなった。」人形の顔が少し恐かったが、自分で作ったら楽しかった。「耳を付けたが少し難しかった。変な顔になった。」との声がかかれた。父兄は「毎年準備が大変だと思えますが子供達も楽しんで作っている。続けられたらと思う。」との希望がきかれた。各自制作した顔は自宅にて乾燥後水彩絵の具で着色し仕上げの事とした。

徳高町区公民館では小平教室による足の制作が行われ、予め教室にて作られた芯となる木型に藁を付け、大まかな形を作り新聞紙を貼り肉付けをして形を整えた。

「思った以上に難しかった。」や「楽しい。」との感想が有った。父兄からは「人形を作るのに手間が掛かるのがわかった。」との苦勞を話していた。

各講座の詳細は左記のとおり。

担当	日程	会場	参加者人数
牛流教室	平29・12・16	等々力町区公民館	26人
保尊教室	平30・1・7	徳高区田中公民館	23人
小平教室	平30・11・17	徳高町区公民館	16人



徳高南小への飾り物・子供達との交流

子供達へ徳高人形の伝統文化意識付けに毎年行っている徳高南小学校への飾り物が入学式前の三月二十七日「浦島太郎」の場面が本年は小平教室により飾られた。今回の飾り物は友達や犬・猫など小動物をいじめず仲良く過ごす事の大切さを理解してもらうことを目的にてこの場面が飾られた。教室の人は「人形の太郎が乗る大きな亀を作るのに苦勞した。」と話をしていた。



また人形教室受講者は毎年年末ボランティアスタッフとして南小学校五年生の注連縄作りに講師として協力している。「回数を重ね子供達の手先の様子が分かるようになり、指導方法も次第に上手く出来てきた。」と話す教室受講者もいる。

昨年は十二月二十日教室教室関係者二十一名が協力を行い、小学生は注連縄、おやす、しゃもじ等を制作した。

今後も当会は南小学校を中心として次世代を担う子供達との交流を行って参ります。

穂高駅と御船会館の飾り物飾り替えられる

本年も穂高駅に観光シーズンを迎える四月二十二日小平教室により本年は人形数を増やして真田親子「犬伏の陣所で密談す」の場面が飾られた。夏場にはこの飾り物をカメラで写したり、一緒に写る観光客の姿が見られた

八月には御船会館にて製作者指導者であった故小平貞男さんが制作して長年飾られていた「川中島の合戦」の場を同じく長野県に関わる「上田城の合戦」の場に小平教室で作られた人形や鎧にて飾り替えた。

人形の足場が傷んでおり作業は大変ではあったが、場面は多くの人形が躍動しており、上田城の石垣や櫓もすっかりとした物が仕上がり、良い飾り物が出来上がった。今後も多くの入館者の目を楽しませる事となる。

当会の会員は会費領収書に付いている御船会館無料入場券にて見学が出来ますのでご利用下さい。



天候に恵まれた文化祭展示

当会の第九回穂高文化協会穂高文化祭展示が穂高神社社務所西側にて十月二十七日、十一月十二日の期間展示された。

二十七日の開会式では勝野正道会長より「例年より早めの

展示であるが、忙しいところ無事に飾って頂き有り難うございました。良い展示が出来ましたので多くの誘客を目指したいと思います。」と展示作品の制作への御礼が述べられた。

穂高光雄宮司からは「新そばと食の感謝祭、七五三詣と大勢の方が見に来られる。人形を見てもらいその評価を糧に今後も努力してもらいたい。」とそれぞれ言葉を頂いた。

場面説明で牛流教室「姉川に火花を散らす木村又蔵」は竹内敏夫さんが「人形が重く、戦いの動きを出すため固定する事が苦労した。」と話した。

保尊教室「秀頼の成長を歎ぶ太閤秀吉」は山田孝さんより「場面は実際に有ったと思う場面を作った。実子を可愛がる秀吉を想像してみた。」場面は城は遷宮祭で使用した物を手直しして使用した。」と述べられ、ほのぼのとした場面が出来上がっていた。

小平教室「戸隠の鬼女 紅葉退治」は嶋田豊實さんより「紅葉の時期に合わせてこの場面を作りました。」と言われた。

展示期間中は天候に恵まれ多くの人が展示を見たり写真を撮った。見学者の中には「以前にも祭りの時に人形を見た事があるが、今日も見ることが出来て良かった。」と喜んでいました。



五十年前昭和の御船祭

このたび会員の中嶋三則さんより貴重な資料が穂高神社へ寄贈されました。中嶋さんが子供連としてお囃子を行っていた約五十年前に写した写真の数々です。

数年に渡る境内南神苑に揃った各地区御船や人形、祭典の風景が撮影されており、今と違う様子も伺えます。当会でも今後資料として活用して行きます。



子供祭・例祭賑やかに斎行される

本年の子供祭は九月八・九日、例祭は九月二十六・二十七日にそれぞれ斎行された。

本年の例祭には宵祭に雨が降ったが、本祭は雨も止み晴れ多くの参拝者がおとずれ境内は賑やかであった。

御船祭各区御船の詳細は左記のとおり。

子供祭

- ・等々力町区 子供船 「大阪の陣に散った木村重成」
- ・穂高町区 子供船 「忠信身代わり一騎打ち」
- ・穂高区 子供船 「天正遣欧少年使節団 ローマ教皇に謁見す」

例祭

- ・等々力町区 子供船 「悲劇の英雄 粟津の戦いにて散る」
- ・穂高町区 子供船 「桶狭間の戦い」
- ・穂高区 子供船 「八面大王と山鳥の尾」
- ・両町 大人船 「源頼朝拳兵 石橋山の戦い」
- ・穂高区 大人船 「北野天満宮縁起」

着物御寄進御礼

この一年間に人形や御船の飾り物に必要な着物類の寄付をお寄せいただき心より御礼申し上げます。

着物・小物を計七十三点頂き誠に有難うございます。今後有効に使用させて頂きます。

寄付者名は左記の通り。(順不同)

- ・安曇野市 宮下廣義様
 - ・安曇野市 降幡優子様
 - ・安曇野市 松原智子様
 - ・松本市 岩浅万里子様
 - ・愛知県みよし市 伊藤訓 以都子様
 - ・愛知県みよし市 池田昌弘 忍子様
 - ・安曇野市 匿名 松本市 匿名
- 愛知県の伊藤様、池田様は近所の呉服屋さんより穂高神社が着物を集めている事を聞き、わざわざ遠方より数多くの着物を届けて下さいました。
- 着物・萱類についての寄付は引き続き事務局穂高神社事務所にて受け付けておりますので、今後もし協力をお願い致します。